

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600109		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 向が丘		
所在地	名古屋市天白区向が丘4丁目1002		
自己評価作成日	平成22年1月9日	評価結果市町村受理日	平成22年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

観察メモという事業所独自の書式を取り入れ、その人の日々「できること」「できないこと」「わかること」「わからないこと」などの状況の把握に努めています。日々の状況の把握の積み重ねが本人のニーズの把握につながり、その人らしく地域で暮らしが継続できることにもつながります。そのことが、理念の「あなたと、ともに」の実現の近道だと考えています。また、ミーティングや勉強会も重視して開催しています。日々のケアや行事計画を考える際、理念に沿った目的・目標を明確にし、必要なミーティング・勉強会を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「年をとったら入りたい施設を自分たちで作る」と熱い思いで日々思考錯誤しながら頑張っているホームである。日々活用している「観察メモ」は簡単なその時の身体状況が読み取れるように絵も描いてあり情報の共有を図っている。それを元にカンファレンスを行い利用者の現状の把握を怠らず継続して個別ケアを実践している。また、家族からは「親と一緒に楽しい思い出を作りたい」の声もあり、夏の1泊旅行は家族の100パーセント参加となった。また、利用者が永眠などで利用が終了した場合「思いでをしのぶ会」を開き家族のグリーフケアを行っている。地域との関係も良好で地域ボランティアの受け入れも多数である。ホームページに相談窓口を設けたり、ホームで介護相談などを行うこともあり、地域に根ざした活動がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を『あなたと、ともに』と定め、住み慣れた地域で、利用者が、その人らしく暮らし続ける為に『本人』『家族』『地域の人々』『施設の職員』などの人々がチームとなって、ともに支え合いながら、家庭的な地域住民との交流を行える関係づくり・環境づくりを目指している。	職員は理念のもとに介護をする姿勢ではなく、利用者と一緒に言う姿勢で、日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎日買い物に出かけることにより、お店の人(地域の方)と顔なじみになっている。 ・事業所内にて「寄り合い茶屋ひらばり」(喫茶店)を開業し、地域の方が気軽に出入りできるように工夫している。 ・地域の方が外出時など付き添いを行ってくださる	町内会の回覧板を利用者と一緒に回している。また、歌、習字、フラダンス、利用者の話相手、畑で野菜作り等をするボランティア活動が活発で社会福祉協議会の紹介や家族、近隣の人など多数の協力があり利用者と楽しいひと時を過している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひらばり婦人会が主催するクリスマスお楽しみ会や、『寄り合い茶屋ひらばり』などで、当施設が介護の相談窓口であることを伝え、地域の方々からの認知症の相談を受け付けている。 ・回覧板やインターネット上のホームページで相談窓口を広く設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎回、事業所の活動報告を行っている。参加していただいている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、事業所の運営などに対しての意見を頂き、参考にしている。	運営推進会議は年6回開催している。会議の中で地域行事の情報をもらい参加したり、ホームの場所が分かりにくいとの指摘があり、案内看板を作り改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	天白区職員へ、地域運営推進会議への参加を依頼すると同時に、情報の共有を行いながら協力関係を築いている。	運営推進会議の議事録を区役所へ持って行っている。職員は区役所主催の口腔ケアなど講習に参加している。市役所には介護保険に関する相談や情報やサービスに関する話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修の中で「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ機会を設けている。 全体ミーティングで年次研修計画を立案し介護に従事しているスタッフに意識してもらえるように、学ぶ機会を設けている。	職員は身体拘束をしないケアの必要性は周知している。フローミーティングなどで話し合い、言葉の使い方もスピーチロックしないように常に意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修において、「虐待防止」マニュアルを使用し、研修を行っている。 ミーティングで年次研修計画に沿い、介護に従事しているスタッフに意識してもらえるよう、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当社において、成年後見制度を利用している人がいるため、ミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して不安なく利用ができるように2時間程度、丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「来訪者box」を設置しご意見を頂けるようにしてある。 カンファレンスを通じて、ご家族からの聞き取りを行っている。 ご家族様から何でも言ってくれる関係づくりに、日頃から努め、出された意見、不満、苦情については、ミーティングにて話し合い、反映している。 年3回以上家族会を開催し、ご家族の意向を聞けるよう配慮している。	利用者の最近の様子を書いた「ほほえみだより」を月1回家族に送付している。家族とは来訪時や家族会、運営推進会議、検討会など意見や要望を聞き、話し合う機会は多い。また、もらった意見や要望はサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ミーティングでスタッフの意見をまとめ、スタッフの意見について協議をしている。	職員会議で出された意見や要望は代表者に伝わり、代表者から必ず返事が返ってくる仕組みとなっており、必要に応じて改善されている。現在は誕生日を全員で祝う企画がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を年4回行っている。その際、自己目標を個人で設定し、前回の面談時の実績を評価し向上心が持てるようにしている。 ・面談実施者は、研修を受け、面談技術向上のため勉強をして面談に臨んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが自発的に研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。また、受講内容などに対して会社が補助してくれる仕組みになっている。 法人外での研修情報をスタッフに回覧板で回し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの勉強会などに積極的に参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談、見学、問い合わせがあった時から、不安や希望、悩みなどを聞く。実際に会う機会をできる限り設け、些細な事にも納得できるような努力を行っている。入居者が気兼ねなく見学ができるように、「ひらばり茶屋」に来ていただき、徐々に慣れて頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、問い合わせの段階から、家族等の話を傾聴するように努め、家族のニーズを引出した上で関係づくりに配慮している。 生活状態やご本人の求めている事柄を理解し、不安の軽減に努めるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談の内容を中立的に吟味し、その人にとって最も必要と考えられるサービスについて、家族と共に模索し、それに伴う情報の提供を心掛けている。当施設以外のサービスが、ご本人様・ご家族様にとって、必要な場合は、その他のサービス利用が行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の「できること」「できないこと」を観察メモによって判断し、日々の生活の場面で入居者が出来ることに関しては、お互いに協力しながら生活が出来るように環境の設定をスタッフは行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族参加のしやすい企画を計画し(旅行への付き添いなど)家族とともに支えあう関係づくりを設定している。 ・月1回お便り(ほほえみだより)で状況の定期的な報告と、随時電話連絡を取ることで、本人を共に支える協力関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの生活がいかに重要かを契約前に説明し、ご家族様・ご本人様からの聞き取りを丁寧に行うようにしている。 ・馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続ができる環境を整え、生活の一環として取り入れている。	利用者の友人がホームの「寄り合い茶屋」にモーニングコーヒーを飲みに来たり、利用者と家族が買い物や入居前の馴染みの場所に出かけており職員と家族が協力しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎週、フロアミーティングにて入居者個人に焦点を合わせ人間関係などいかに響き合わせることができるか話し合う場を設け、改善に取り組んでいる。 毎日の昼礼にて、当日の利用者の心身の状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者の永眠等により利用終了となったご家族に行事に参加して頂き、「思い出をしのぶ会」を開くことで、グリーフケアを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりのケアの方針について、フロアミーティングで話しあいを設けてかわり方を見直したり、改善するようにしている。 ・観察メモを使用し、利用者の思いや状態の把握に努めている。	利用者が会話の中で発する言葉や何気ない表情を、毎日観察メモに記録し、その人が抱えている思いや希望をひとつでも多く汲み取れるよう努めている。言葉をかけるだけでなく、日頃の過ごし方を大切にできるだけ目を向けるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・観察メモを用い、その人の馴染みの環境を把握するように努めている。 ・ご家族様・ご本人様の会話の中で、折にふれ、馴染みの暮らし方を聞くように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・観察メモを用い、ご本人の「できないこと」「できること」「わからない事」「わかる事」を観察し、日々把握できるように努めている。 ・上記の内容を、フロアミーティングにて話し合いスタッフに情報の伝達と話し合いを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的または、必要時に行うことによりご本人様・ご家族様・医師・看護師・介護士・ケアマネ・管理者などが参加して「あなたと、ともに」の理念に沿った入居者本位の介護計画を作成している。	ケアプランは医師、看護師、その他必要な関係者、家族、利用者の意見や希望と、毎日の利用者の様子を観察メモも参考にし、その人が何を本当に望んでいるかという視点から作成している。モニタリングも定期的実施し、利用者の状況に即したケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・観察メモを用い、個々の利用者に焦点を当てている。 また、観察メモを掲示することにより、スタッフが見て、情報の共有化ができるようになっている。介護記録③により日々のケアプランに対するモニタリングも行っている。それにより、ケアプランの変更・見直しの情報源となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、通院介助を行っている。家族の時間の許す限り一緒に過ごしていただけるように、食事の提供なども行っている。 家族控室にてご家族様に泊まっていただき、一緒に過ごす時間を提供できる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	NPO法人「おやじの会」と共同し、年末に年越しそばを打つ行事を行った。子供から、大人まで参加し入居者も一緒に楽しみました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受け入れられるようにご家族と協力している。	協力医の往診は2週間に1回あり、緊急時はすぐに対応してもらえる体制になっている。又、必要に応じてカンファレンスへの参加をしてもらい、専門的なアドバイスや情報の提供を得ている。利用者のかかりつけ医とは、情報提供表を用いて薬等の調整、その他について協力医との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から、週2回来所し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・日頃から、地域の病院とのケースワーカーと頻りに情報交換を行っている。入院をした際には、窓口の確認・情報交換・今後の相談を円滑に行い、速やかな退院支援に結び付けている。 ・地域の救急病院である、名古屋記念病院とは、医師も含め直接、入退院も含め情報のやり取りがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族様と重度化に伴う支援の方針を話し合うようにしている。 ・重度化・終末期に対する対応指針を定め、対象の利用者に対して、早い段階から、フロアミーティングで話し合いを設けている。	利用者の状況に合わせてながら、協力医、家族、本人を交えて支援の方向性をじっくり話し合う機会を設けている。出来る限り本人や家族の意向に沿えるよう、スタッフ間の情報共有と連携を密に図り、家族と共に最期まで利用者を支えていく体制作りを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・「応救手当マニュアル」を事務所に備えている。 ・フロアミーティング内で、急変時の対応について話し合いを設け、技術の向上に取り組んでいる。 ・全体ミーティングで年次研修計画を立案し介護に従事しているスタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時マニュアルに沿って緊急時には行動するようにしている。 ・ご利用者・スタッフおよびその家族の分の食料を3日分確保している。 ・全体ミーティングで年次研修計画を立案し介護に従事しているスタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。	消防団の参加協力を得て、災害訓練を年に3～4回実施している。毎回利用者と一緒に状況設定を変更して行い、終了後は反省会を設けて、次の実施への課題目標に繋げている。各スタッフが冷静に対応ができるようマニュアルも作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、個人情報の利用に関する同意書に承諾を頂いている。 ・スタッフは、入社時、個人情報とプライバシーの重要性を説明し、誓約書に承諾をしている。 ・ミーティングで年次研修計画に沿って介護に従事しているスタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。 	入浴やトイレ誘導等の言葉かけは、声の大きさにも配慮し一人ひとりの立場を尊重したケアを心がけている。又、徘徊等は『問題行動』と捉えるのではなく、なぜのその人がそのような行動をするのかを考え、常に利用者の気持ちに寄り添う姿勢を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を行う時には、聞き取りを行い、本人の希望を踏まえた行事になるように心掛けている。 ・意思表示が困難な利用者に対し「はい」「いいえ」で答えられる質問を用いるなど工夫し、少しでも自己決定ができるように心掛けている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の前の聞き取りにおいて、ご本人のこれまでの生活パターンの把握を行うようにしている。 ・基本的な1日の流れはあるが、その人の思いや、状態に配慮しながら、柔軟に対応している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの美容室へ家族に行っていただけるように依頼をしている。 ・訪問美容師とご本人様とで直接パーマやカラーの相談を行い、本人の望む理美容を行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立決め、買い出し、食事作り、の一連の行為を利用者が中心となって行っている。調理を通し、作る、食べる、食べてもらう楽しみなどの環境を整えている。 ・実際に調理に参加ができない利用者には「味見など」何らかの形で調理に参加をしてもらい、ご利用者様に合わせた支援を行っている。 	日々のメニューを決め食事の準備まで、利用者がそれぞれの役割を持って一緒に楽しみながら行っている。1日30品目を目標としバランスのとれた食事の提供を心がけている。又、誕生日や節句、お正月のおせち料理等も作り、食を通して季節感も感じてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量、食事摂取量を記録している。 ・1日30品目を摂取できるような献立を心掛けている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きの大切さを利用者へ説明し、毎食後の歯磨きが習慣になるように支援している。 ・入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助、液体ハミガキの活用などの支援を使い分け、確実に口腔ケアが出来るように支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄記録表を用い、尿意の曖昧な方にも気持ちの良い排泄ができるように支援している。 フロアミーティングにて、その人その人にあった支援が出来るようにスタッフで話し合っている。	排泄記録表により利用者の排泄パターンを把握している。その人に合わせたトイレ誘導を心がけている。拒否の場合は、様子を見ながらその時々に応じた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日中の活動量を増やすことによって便秘の解消につなげている。 ・ヨーグルトを朝食メニューに取り入れることによって便秘の軽減を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴がしたい時間帯などの聞き取りを行い、出来るだけ希望にそった時間帯に入浴が出来るように支援している。	利用者がいつでも好きな時に入浴ができる体制にしている。入りたがらない利用者に対しては、時間をおいて言葉かけをしたり、誘導の工夫を試みるようにするが、無理強いをしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用開始前に馴染みの明るさなどの聞き取り調査を行っている。入眠時にはダウンライトを使用し、安眠ができるような環境を整えている。 ・入居者が寝付けない時には、テーブルでお話をするなど、気持ちに配慮した支援に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を個人ファイルに保管し、必要時には手軽に確認しやすいよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事ごとに、入居者の喜びや、楽しみ、なじみなどの聞き取りを行い、行事を企画している。秋には聞き取りから、「秋の一泊旅行」を行った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などを日常的に行っている。気分に応じて、馴染みの店以外にも足を延ばし気分転換を図っている。	食材の買い出しや散歩、喫茶店へ行く等、1日1度はホームから外にでる機会を設けるようにしている。又、週末等を利用し家族の協力を得て、利用者が希望している場所へ一緒に出かけてもらう支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々に財布を持っている。管理の難しい方には、事務所にて管理を行っている。支払は、自分でできるように環境を整えている。 施設の中でも、お金を使える環境があり、希望に応じて支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・フロアに電話を置き、いつでも入居者が使えるようにしている。 ・施設の電話を利用する時は、会話が他の入居者に聞こえない場所(個室など)で利用できるようコードレス電話機など設置し配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアの中心に台所があり、入居者が使いやすい工夫をしている。 ・玄関、フロアには、季節感を取り入れたディスプレイを行っている。 照明も、ダイルームには暖色系の照明を設備し、環境を整えている。	日頃利用者が集まるリビングは、明るく広々としており、中央には昔ながらの掘りごたつと畳のスペースが設けられ、皆が寛ぎやすい雰囲気である。又キッチンリビング全体が見渡せる配置になっており、スタッフと談笑している利用者の姿が穏やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ひらばり茶屋、家族控室など自由に使える空間が保たれており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時には、馴染みの道具(家具や布団など)を持ってきてもらえるようご家族に協力を依頼している。	利用者の各居室の入り口には、自分のお気に入りの小物や思い出の写真等を飾るボックスがあり、自分の部屋がすぐに分かる工夫がされている。居室内も清潔に保たれており、快適に暮らせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・カウンターは、椅子に座られる入居者に配慮した高さとした。 入居者のなじみの環境(和式のトイレ・吊り下げ式の電球・まわすタイプの蛇口)を設置することで入居者の道具に対するの混乱をさげ、「分かること」「出来ること」が増える環境を整えました。 ・浴室の手すりの色には、高齢者が見やすい「赤」を採用し、安全に注意した。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	事業所内に午前中は喫茶店の「寄り合い茶屋」があり地域住民の交流の場所となっている。午後は子供会の役員会に場所提供をする時もある。子ども110番を引き受けたり、地域の人から介護相談を受けることもよくあり、地域との関係も良好である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	年6回偶数月に開催している。出席者は福祉・保健に知見を有する人、民生委員、天白地域包括支援センター職員、利用者家族代表等である。会議内容は社長から運営推進会議の設置義務や目的についての話や前回の決定事項の確認、さらにホームの活動報告を行っている。また、協議事項として「地域に施設を知ってもらうには」について意見交換をしており、それは有効に活かされている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	社会福祉協議会にボランティアの依頼をしたり、職員は、ケアマネージャー会議や口腔ケアなど区役所主催の研修に参加している。新施設立ち上げの関係もあり市役所や区役所に出向き相談することは多い。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	月1回利用者の様子を書いた「ほほえみだより」を家族に送付している。ホーム来訪時やカンファレンス、年4回の家族会やホーム行事など家族と話す機会が多い。意見や要望は気軽に話してもらえるような関係になっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域のボランティアも囲碁、将棋、手芸、紙芝居など多数の受け入れをしている。事業所内にある「ほほえみ地蔵」で手をあわせたり、喫茶店で寛ぐ地域住民の交流の場所となっている。家族参加型ホームで1泊旅行は100パーセントの参加となっている。同敷地内にグループホームが2つと小規模多機能型居宅介護があり運営推進会議は合同で行っている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

